

## 水性フレキシ印刷によるラッピングフィルム生産における CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)の削減効果を検証

佐川印刷株式会社(本社:京都府向日市、代表取締役会長 CEO:木下宗昭、取締役社長:木下寧久)は、標題の検証結果を公表します。(文責=取締役専務執行役員:宇山明彦)

当社は、主に雑誌や通販カタログ、ダイレクトメールなどの輸送に使われるラッピングフィルムの印刷に、2015年から水性フレキシ印刷を採用しています。

当社の調査によると、ラッピングフィルムの印刷に水性フレキシ印刷を採用している企業は、少なくとも日本国内では当社のみであり、他ではほとんどがグラビア印刷を採用されています。

当社は2015年から2019年の5年間で43,776,118 m<sup>2</sup>のラッピングフィルムを印刷し、約1,112トンのCO<sub>2</sub>を排出しましたが、同量のフィルムを一般的なグラビア印刷で印刷した場合のCO<sub>2</sub>排出量は2倍以上の2,302トンとなります。

つまり5年間で1,190トンのCO<sub>2</sub>排出を削減したこととなります。

詳しくは当社HP <https://www.spcom.co.jp/pdf/C02Reduction.pdf>に掲載しております。



また、ラッピングフィルムのみならず、家庭紙業界大手のコアレックスグループ様で使用される、家庭紙の外装フィルムや、大手食品メーカー向けの軟包装などの分野で水性フレキシ印刷をご採用頂き、手の届くところから地球温暖化防止に寄与しております。

同時に当社は、使用済み廃フィルムなどから再生したリサイクルラッピングフィルム(RWF™)を開発し、その製造・販売もおこなっており、バージンナフサの使用を削減するとともに廃プラも削減し、更なる環境配慮型企業を目指しています。

以上

CO<sub>2</sub>はVOC※を燃焼させたとして、換算しています。

※ VOCとは、揮発性有機化合物(Volatile Organic Compounds)の略称で、塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的な物質です。

大気中の光化学反応により、光化学スモッグを引き起こす原因物質の1つとされています。 出展:経済産業省HP



〈このリリースについてのお問い合わせ先〉

佐川印刷株式会社 日野軟包材工場 (水性フレキシ促進協議会正会員)

〒529-1663 滋賀県蒲生郡日野町北脇字中畑120

担当: 川端 nob-kawabata@spcom.co.jp

TEL: 0748-53-8222

FAX: 0748-53-8211